

公益財団法人 国家基本問題研究所  
総合安全保障プロジェクト

# 中国軍事動向月報

2025年1月



**JINF**

Japan Institute  
for National Fundamentals

## 目 次

|             |          |
|-------------|----------|
| 1 全 般       | ・ ・ ・ 3  |
| 2 各軍等       | ・ ・ ・ 4  |
| 3 対台湾動向     | ・ ・ ・ 8  |
| 4 対日動向      | ・ ・ ・ 11 |
| 5 国境地域等での活動 | ・ ・ ・ 14 |
| 6 軍事交流      | ・ ・ ・ 16 |
| 参考文献        | ・ ・ ・ 18 |

# 中国軍事動向月報：2025年1月

2025. 2. 7

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

## 1 全般

1月2日、全軍において新年度の軍事訓練が開始された。各部隊で訓練開始式等が実施され、新たな訓練年度の始まりを宣言した。また、29日の春節を前に、優秀部隊・隊員の表彰、昇任式、退役式等の行事も各部隊で実施された。

1月は、昨年末の最終検閲を総括し、新たな訓練年度に向けての準備が行われる月であり、定期的なパトロールは継続しているものの、大規模な訓練等は確認されなかった。

台湾周辺での軍の活動も低調であったが、金門周辺海域での海警の活動には変化はなく、法執行パトロールの常態化は継続している。また、台湾周辺での海底ケーブル損傷が確認され、中国の関与が疑われた。

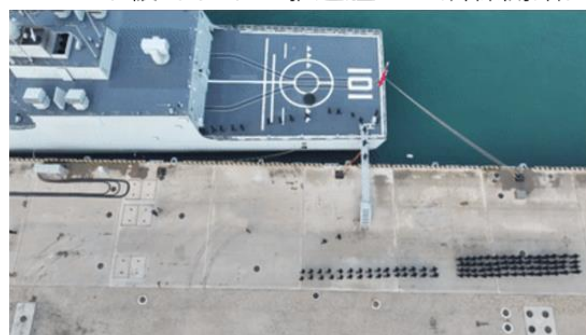
日本周辺での軍の活動も低調であったが、尖閣周辺海域での海警の活動は継続した。12月に上番した4隻共74mm砲搭載した第2支隊の編隊は1月8日まで活動したものの、任務間、領海侵入せずに第1支隊と交代し、帰港した。今は中国側から更にエスカレーションラダーをあげて日本を刺激する時期ではないとの中国の意図を示すものと言える。トランプ新政権を見据えた日本との関係改善や海保巡視船の装備増強等へ繋がる恐れを考慮した可能性がある。

南シナ海においては、比への威嚇や実効支配強化の手段として、投入する軍・海警アセット及び活動地域を逐次拡大している。比側アセットと近距離で直接対峙している状況も映像やAISで確認されており、今後衝突等の物理的な被害が発生する可能性も拡大している。

陸軍第76集団軍某旅団での訓練開始式



レンハイ級ミサイル駆逐艦での訓練開始式



(資料源：左右共環球網20250102)

## 2 各軍等

### (1) 新年度軍事訓練開始

1月2日、全軍において新年度の軍事訓練が開始された。

2025年の訓練に関し国防部報道官は1月17日、以下の通りその焦点を述べた<sup>1</sup>。

- ・ 現実の安全保障上の脅威に焦点を当て、実際の作戦の場面に応じた訓練を実施し、統合作戦訓練を強化し、訓練による抑止力を十分に発揮させる。
- ・ 全軍基礎訓練現地会議・全軍合成訓練現地会議の成果や全面的に施行された新たな基礎訓練大綱に従い、軍・兵種混合編成等の難しい問題を研究・訓練する。
- ・ 新型の戦闘機・艦艇・ミサイル等の新装備の訓練を重視し、積極的に無人装備・AI等の新領域の訓練に取り組み、新たな戦闘力を造成する。
- ・ 科学技術やオンラインを活用した訓練を深化させ、その力により部隊の訓練上の問題を解決し、新たな訓練手法を創造する。
- ・ 他国軍との共同訓練においては、更に演練項目・規模・期間を拡大し、国際軍事体育大会にも積極的に参加し、軍事訓練交流の質と量を向上させる。

### 【コメント】

#### 新年度訓練開始：国防部報道官が記者会見で述べた年度の訓練重視事項の比較

|   | 2024年（1/12）           | 2025年（1/17）                                   |
|---|-----------------------|---|
| 1 | 基礎訓練                  | 現実の脅威に則した統合訓練<br>・ 訓練による抑止力を発揮                |
| 2 | 対抗訓練                  | 基礎訓練・合成訓練<br>・ 全面的施行の新基礎訓練大綱や全軍合成訓練現地会議の成果に準拠 |
| 3 | 統合訓練                  | 新装備・新領域（無人装備・AI等）の訓練<br>・ 新たな戦闘力の造成           |
| 4 | 科学技術（無人装備・AI等）を活用した訓練 | 科学技術を活用した訓練<br>・ オンライン訓練の活用                   |



#### 2025年の訓練の傾向

- 1 台湾侵攻を想定した統合訓練が更に活発化。台湾独立抑止の名目で訓練項目・範囲等の烈度が強化
- 2 全軍訓練現地会議や大綱制定を経て訓練基準が統一化、各部隊の訓練指導が効率化され、部隊の練度が向上
- 3 逐次部隊に配備中の新領域関連の装備の訓練が本格的に開始

## (2) 春節前の高官による部隊視察

### ○ 習近平中央軍委主席

1月24日、習近平中央軍事委主席は瀋陽所在の北部戦区機関を視察し、部隊の戦備当直と任務執行状況をリモート視察し、全軍・予備役・民兵に対して春節の挨拶を行った。

リモート視察受検部隊は、南部戦区陸軍某旅団任務部隊・東部戦区海軍沿岸ミサイル某連隊当直分隊・中部戦区空軍地对空ミサイル某大隊・軍事宇宙部隊早期警戒レーダーサイト・鄭州聯勤保障センター車両輸送某連隊第2大隊・武警チベット総隊シガツツェ支隊勤務第3大隊であった<sup>2</sup>。

部隊をリモート視察する習近平主席と戦備当直勤務状況を報告する受検部隊



(資料源：中国軍網20250125)

### ○ 張又俠中央軍委副主席

春節前の某日、張又俠中央軍委副主席は情報支援部隊某部を視察し、新年の挨拶を行った<sup>3</sup>。

### ○ 何衛東中央軍委副主席

1月22日、何衛東中央軍委副主席は北京の空軍レーダー某旅団を視察し、新年の挨拶を行った<sup>4</sup>。

【コメント】

春節部隊視察：訪問部隊と視察時の強調事項の比較

|     | 2024年  | 2025年   |
|-----|--|---|
| 習近平 | <b>天津警備区</b><br>・天津部隊の洪水災害派遣を慰労<br>・建軍百年奮闘目標実現へ努力  | <b>北部戦区機関（瀋陽）</b><br>・6コ <b>戦備当直部隊の任務執行状況をリモート視察</b><br>・全軍が戦備当直を強化し、不測事態に適時適切に対応すべし  |
| 張又俠 | <b>陸軍第82集団軍某旅団<br/>空軍航空兵某師団（北京）</b><br>・新時代の戦備・戦闘を探求し、建軍百年奮闘目標実現へ努力<br>・基礎訓練の新様式を推進し、合成訓練の在り方を探求 | <b>情報支援部隊某部</b><br>・ <b>党の政治主導</b> 及び訓練・戦備を強化し、建軍百年奮闘目標実現へ努力<br>・ <b>腐敗・不正への厳正な対処</b> |
| 何衛東 | <b>武警北京総隊某支隊<br/>北京衛戍区某連隊</b><br>・党と人民の賦与した任務を完遂し、建軍百年奮闘目標実現へ努力<br>・全隊員による訓練強化                   | <b>空軍某レーダー部隊（北京）</b><br>・建軍百年奮闘目標実現へ努力し、党と人民の賦与した任務を完遂<br>・ <b>新質戦闘力建設</b> を強化        |

2025年の軍の傾向

- 迅速に戦力発揮できる戦備態勢維持を強化、**何時でも台湾侵攻できる態勢を誇示**
- 新質戦闘力（宇宙・サイバ-等の**新領域能力**をネットワークやAI等でシステム化した多元的戦闘力）の整備
- 党の軍支配が堅持、反腐敗運動が継続され、**習近平の意向により更迭**される高官も出現



### (3) 海軍

#### ○ 054B 一番艦の就役

1月22日、054Bフリゲート艦（ジャンカイⅢ級フリゲート）一番艦が青島（北部戦区海軍）にて就役。公式に報道された諸元等は以下の通り<sup>5</sup>。

- ◇ 艦名：漯河（トウガ）
- ◇ 艦番号：545
- ◇ 排水量：約5000t
- ◇ 性能等：ステルス性・作戦指揮システム・火力総合コントロール等の能力が向上

また、中国の軍事専門家は CCTV で以下のように解説している<sup>6</sup>。

- ◇ 054A に比し、船体が大型化しており、対艦ミサイルの射程延長、より多くの弾薬搭載等が可能
- ◇ 全電力推進・CODAG（ディーゼルエンジン・ガスタービンエンジン併用推進方式）を採用しており、ソナーを有効に使用可能で対潜能力が大幅に向上
- ◇ 一体化メインマストを使用、ファイズトアレイレーダーの他、Xバンドレーダーが新たに装備され、UAV や低空目標の探知に有効

#### 054B 一番艦「漯河」

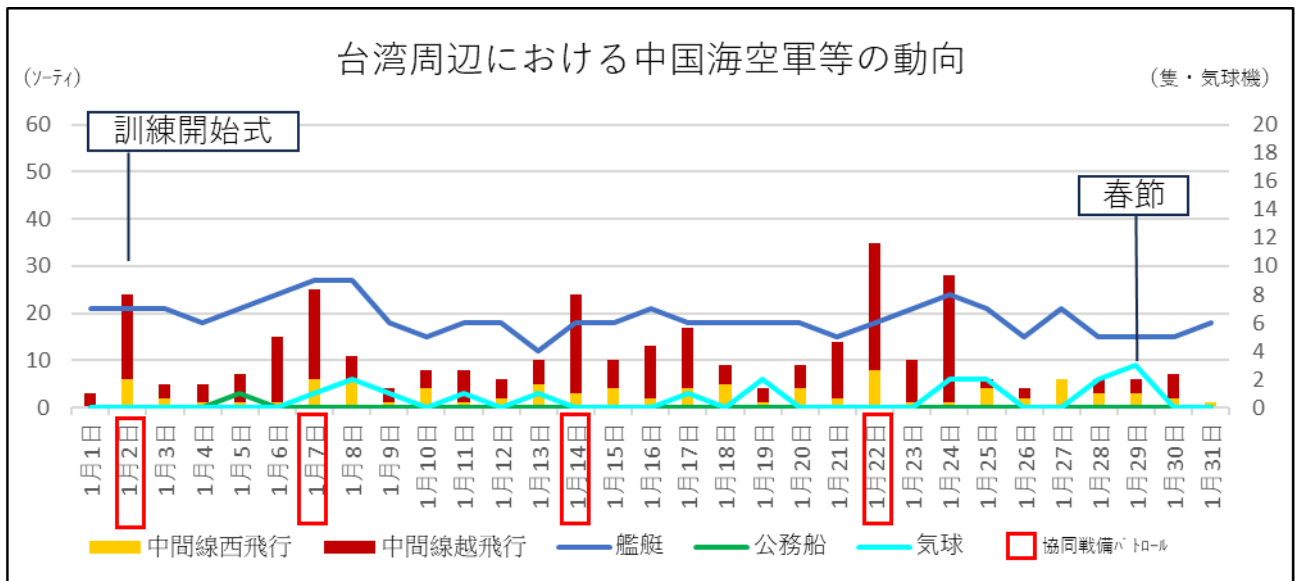


（資料源：解放軍報20250123）

### 3 対台湾動向

#### (1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

1月は中国軍機延べソーター340 (内、中間線超えが延べ248)、中国艦艇延べ196隻、公務船延べ1隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は35ソーター、最大中間線超え27ソーター、海空協同戦備パトロールは4回であった。

#### 【コメント】

昨年12月までに年末検閲及び公表はされなかったが台湾周辺・西太平洋等での大規模な軍事行動が終了し、1月29日に春節を迎えたことから1月は例年通りの低調な活動であった。

2日の訓練開始式は儀式的要素が強いものの、一定の活動が認められた。

2024年5～10月には確認されなかった気球が、2024年11月6機、12月13機に引き続き、計18機確認された。気流等の気候の関係も考えられるが、軍用機の活動低調時に活用している可能性もあり、今後も注視が必要である。

#### (2) 金門周辺海域での動向

中国海警局東海分局報道官は、福建海警局が1月21日に金門付近海域において常態化法執行パトロールを実施と発表<sup>7</sup>。

一方、台湾海巡署は、中国海警4隻が1月9日<sup>8</sup>・21日<sup>9</sup>に金門制限水域に入域し、台湾巡視艇4隻を派遣し退去させたと発表。海警船はいずれも当初4か所から入域し、事後2隻2編隊で航行、一度出域後にまた入域を行い、約4時間に2回制限水域内を航行した。昨年からの金門制限海域への入域は通算56回となった。



### (3) 台湾沖海底ケーブルの損傷

#### ○ 基隆沖

台湾海巡署は1月3日、台湾沖での海底ケーブル損傷について、以下のように発表<sup>10</sup>。

「1月3日0745、台湾海巡署は中華電信から、台湾野柳北東海域で国際海底ケーブルが4か所損傷と通報を受けた。

中華電信によると、予備ケーブルにより国内の通信には影響しない、当該海域を航行していたカメルーン船籍『SHUNXIN39』貨物船の航行により破損の疑いがあるとのこと。

海巡署は直ちに現場に巡視船を派遣、3日1640、野柳北方7カ所で『SHUNXIN39』を発見、直ちに基隆港にもどり調査を受けるよう要求し、調査手続きをとった。事後は中華電信の記録やレーダー等の証拠と共に地方検察署に移送し、刑事責任や賠償について究明する。」

#### 「SHUNXIN39」の航跡



(資料源：自由時報20250115)

#### 「SHUNXIN39」貨物船



(資料源：台湾海巡署20250106)

#### ○ 台湾本島－馬祖海底ケーブル

台湾海巡署は1月22日、台湾本島－馬祖間海底ケーブルの障害発生について、以下のように発表。

「1月15日1528に台湾海巡署は中華電信から『15時8分、台湾本島－馬祖第3海底ケーブル信号に異常が発生』との報告を受けレーダーで搜索したが、障害発生地点を航行する船舶は発見できず。

22日0608、海巡署は中華電信から『5時34分、障害発生』との通報を受けレーダーで搜索したが、障害発生地点を航行する船舶は発見できず。

海巡署は引き続き船舶の動向を監視しており、疑いのある船舶等が発見したら直ちに各港湾の船舶交通管理システムに通報し、無線放送で離脱するよう要求すると発表。また、中華電信は当初は外からの力によりケーブルが切断されたと判断しており、海巡署は直ちに通報された緯度経度

をレーダーで捜索し、現場に急行した。また、検察官へは調査・優先的な関連船舶の拘留、港湾局へは拘留後の停泊地の提供への協力を依頼した。」

### 【コメント】

3日に損傷したのは太平洋横断高速海底ケーブルシステム（TPE）の一部であり（下図左参照）、中国・台湾・日本・韓国・米西海岸を結んでいる。中華電信は緊急バックアップの作動と他の海底ケーブルへの移行により、大きな通信障害は発生せず、国外の海底ケーブル敷設船が修復に来るようすでに手配しており、気象条件などに問題がなければ1月末までに修復できると発表した。

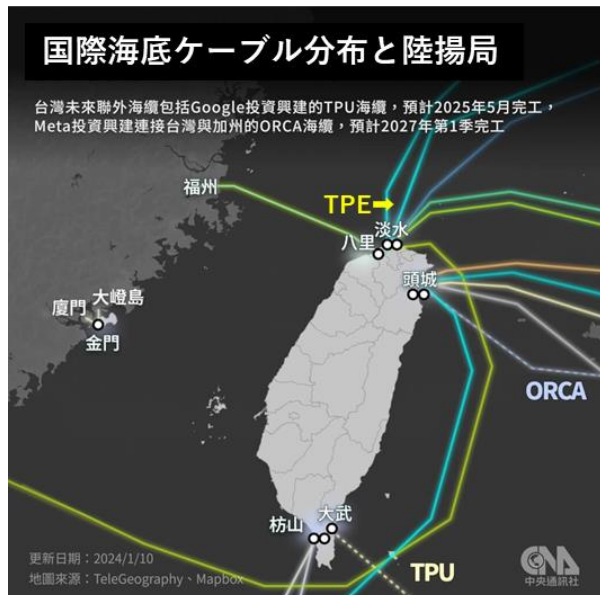
関与が疑われる「SHUNXIN39」は船籍はカメルーンであるが、船主は香港籍で、船員7人全員が中国人。その後の報道では、海巡署は乗船して調査を試みたが悪天候のため実施できず、貨物船は韓国の釜山港に向かったため、仕向地である韓国に調査を要請したとのことである。

22日にも台湾本島－馬祖第3海底ケーブル（下図右参照）で障害が発生したが、関与の疑いのある船舶は発見できなかった。

台湾周辺では過去5年間で27回海底ケーブルの切断障害が発生しているが、海底ケーブルを切断することは軍事のみならず経済や社会活動に大きな影響を与える。

もし、中国が意図的に切断を行っているとするれば、現時点では台湾へ非軍事的な手段による威圧を与えると共に、台湾への軍事作戦時及び作戦前のグレーゾーン時に、どのケーブルを切断すれば作戦上効果的で台湾の復旧能力はどの程度か、を見積もるために民間船舶を利用し切断を繰り返している可能性がある。

## 台湾周辺の海底ケーブル

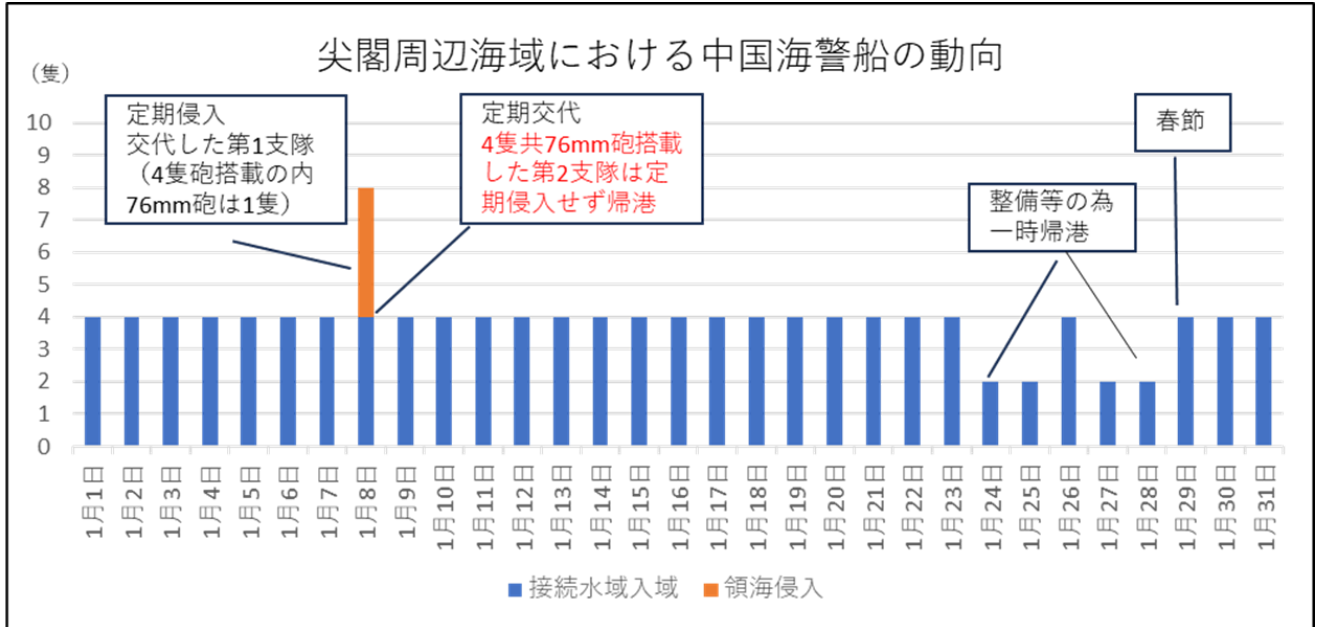


（資料源：左右共CNA20250110に加筆）

#### 4 対日動向

##### (1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

##### 【コメント】

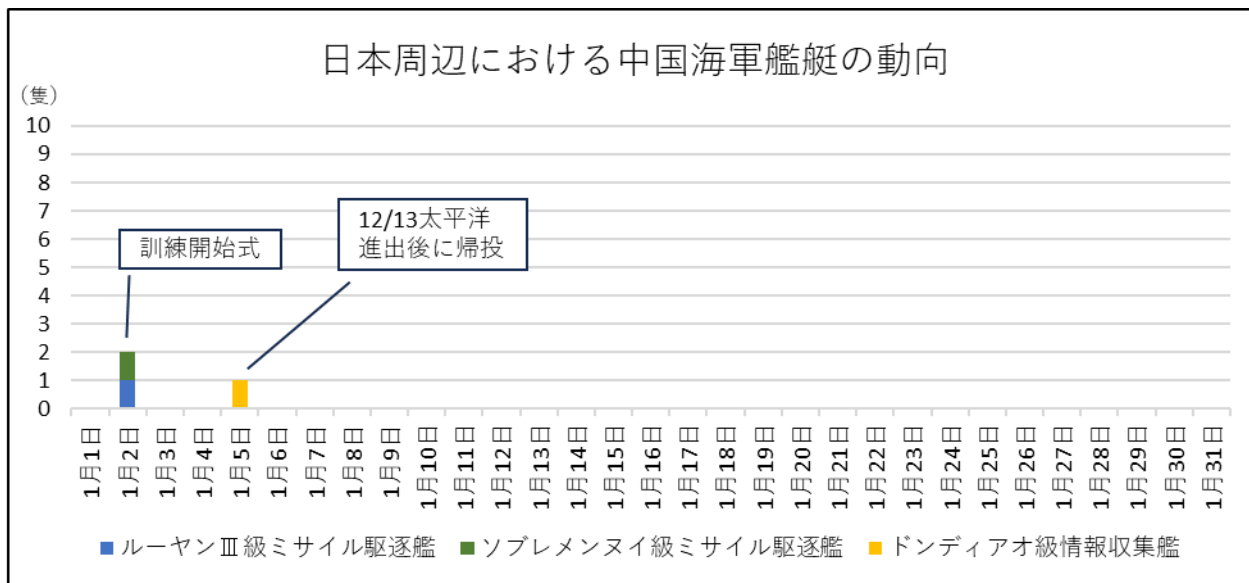
12月に上番した4隻共76mm砲搭載した第2支隊の編隊は1月8日まで活動したものの、領海侵入せずに第1支隊と交代し、帰港した。

中国はトランプ新政権誕生前に日本と関係改善を図っていると見られそれへの悪影響や、海保巡視船の装備増強等へ繋がる恐れ等を考慮し、76mm砲4隻で領海侵入した場合、日本がどのような反応をするか見極めるため、領海侵入までは実施せず12月から76mm砲4隻で接続水域を1か月間航行、更にエスカレーションラダー上昇可能か、日本の反発の有無を確認していた可能性がある。

24日からは整備・補給等の為、2隻づつ一時帰港したが、春節の29日には4隻態勢に復帰し、習近平が春節前に訓示した戦備当直態勢の強化をアピールした。

## (2) 日本周辺での軍の活動状況

### ○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海軍の動向



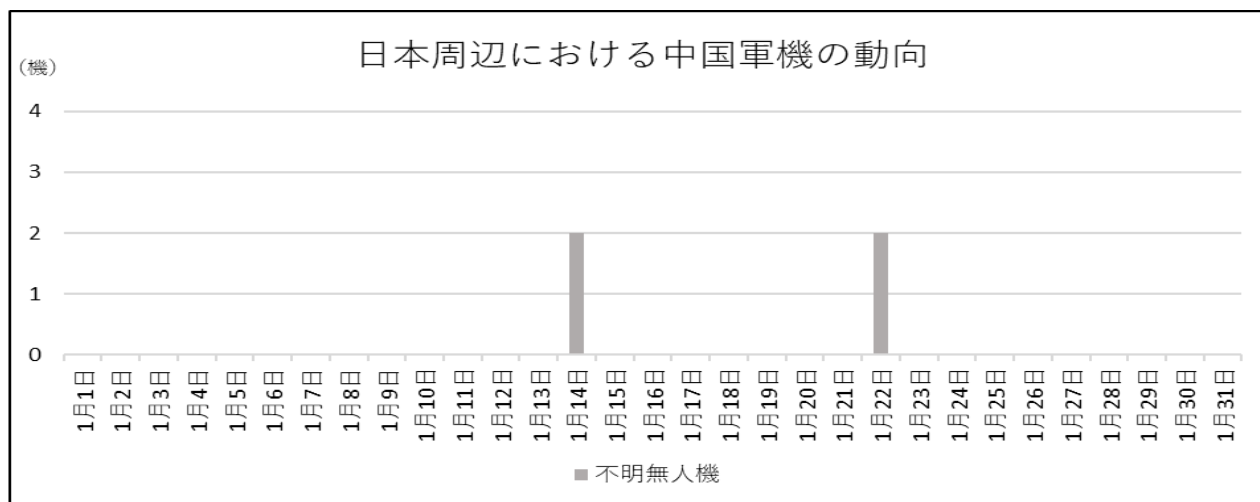
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

#### 【コメント】

延べ3隻の活動が確認された。

訓練開始式に関連の可能性がある艦艇の活動と情報収集艦の帰投であり、大規模な訓練は確認されなかった。

### ○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

#### 【コメント】

延べ4機の活動が確認された

いずれも台湾周辺の海空協同戦備パトロール時に台湾本島を周回する無人機であった。

### (3) 東部戦区代表団の訪日

1月13～17日、東部戦区代表団（団長：陳岳琪副司令員）が訪日。2024年11月の日中防衛相会談において、防衛当局間における対話や交流の重要性で一致したことを踏まえたもの。

同代表団は防衛省を訪問し、大和防衛政策局長及び川村統合幕僚監部運用部長との間で意見交換を実施した。日本側から中国による我が国周辺海空域における軍事活動の活発化に対し、深刻な懸念を改めて伝達し、双方は各種懸念について、指揮官レベルを含め、率直な対話を行っていくことの重要性について確認した。また、自衛隊中央病院及び海上自衛隊舞鶴基地を訪問した<sup>12</sup>。

#### 【コメント】

中国の報道によれば、陳岳琪は2023年に東部戦区副司令員となり海軍中將に昇任。南海艦隊で艦長等を歴任し、2014年に空母遼寧編隊の司令官に就任し、2016年には空母遼寧が初めて太平洋に進出して訓練した際にも指揮を執った。

### (4) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

#### ○ 日本は2025年に新装備開発に投資<sup>13</sup> 解放軍報 20240102

日本が長距離ミサイル等の新装備に2025年予算を計上しているのは軍事力で「普通の国家」になろうとしているとの企図で危険である。

#### ○ 日本が欧州との安全保障協力を推進<sup>14</sup> 解放軍報 20240106 中国国際問題研究院 孫文竹

日本とEUとの「戦略パートナーシップ協定」が1月1日に発効した。近年、米国の黙認と推進の下、日本と欧州主要国との軍事安全保障協力が強化されている。これは日本が戦後体制を突破しようとの意図であり、またトランプ政権下の米国の戦略調整の不確実性に対し欧州と協力して対応しようとするものだ。

#### ○ 日本防衛予算が再び最高額<sup>15</sup> 解放軍報 20240109 中国国際問題研究院 孫文竹

2025年の日本防衛予算が連年大幅増額され最高額となり、その重点は「反撃能力」だと報道されている。このような動きは日本国民を不安に陥れるだけでなく、地域の平和を不安定化させる。日本の軍拡の背景には米国の黙認と支持があり、日本は米国のインド太平洋戦略のお先棒を担っているのだ。

#### ○ 英伊日戦闘機開発実施へ<sup>16</sup> 解放軍報 20250112 軍事科学院 謝思強

英伊日戦闘機開発が正式に実施段階に入った。しかし、新戦闘機に対する各国の要求には相違もあり、また新世代戦闘機のコンセプトも絶えず変化しているので研究費用も高騰する。三か国は莫大な投資の分担に合意しているが、一か国でも資金に問題がでれば、このプロジェクトは流産することになるであろう。

#### 【コメント】

日本と欧州との防衛協力強化に対し牽制する記事を掲載、NATO諸国のアジア太平洋への関与、特に台湾有事の際の日本との連携を念頭に牽制した。



## 5 国境地域等での活動：南シナ海での対フィリピン（以下、比）活動

### ○ 全般

比は1月17～18日、本年初の米比合同演習をパラワン島及び周辺海域で実施。また、比海軍も同時期にスカボロー礁周辺で本年初の演習を実施した。

これに対し、南部戦区は「1月17～18日、南部戦区は南シナ海において海空戦備パトロールを実施。南シナ海をかき乱す如何なる軍事活動も掌握している」と発表<sup>17</sup>。

### スカボロー礁上空のSu-30戦闘機



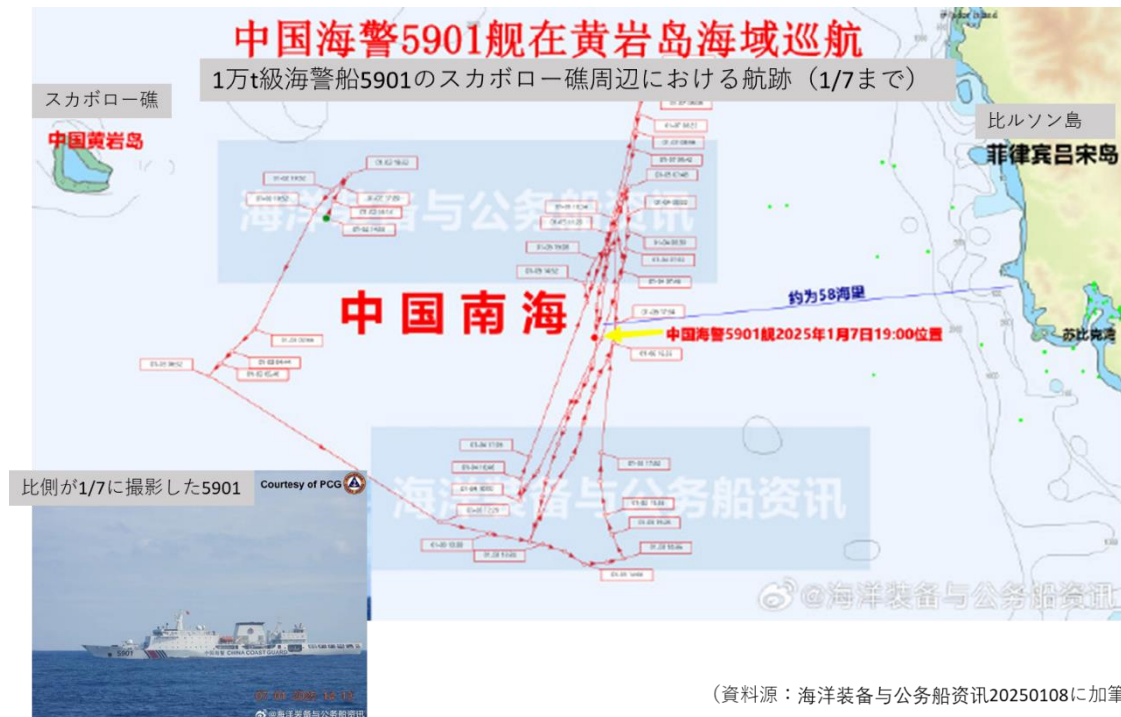
### スカボロー礁上空のH-6K爆撃機



(資料源：左右共玉渊潭天20250119)

### ○ スカボロー礁

- ◇ 12月31日～1月1日、スカボロー礁で海警が艦載ヘリを初飛行させ海上捜索救難訓練実施<sup>18</sup>。
- ◇ 3日～15日、1万トン級海警5901がスカボロー礁周辺にて法執行パトロールを実施と報道<sup>19</sup>。
- ◇ 海警が、31日にスカボロー礁領海及び周辺海域で法執行パトロールを実施と発表<sup>20</sup>。
- ◇ 南部戦区が、31日に海空兵力によりスカボロー礁の領海領空及び周辺区域の戦備パトロールを実施と発表<sup>21</sup>。



(資料源：海洋装备与公务船资讯20250108に加筆)



○ サンディー礁

海警局報道官は、比船 3003, 3004 が 1 月 24 日に中国政府の許可を得ず、サンディー礁（中国名：鉄線礁）周辺海域に侵入し、上陸して砂のサンプルを採集しようとしたため、阻止・離脱させたと発表<sup>22</sup>。

比3004船がボートを卸下（海警4202から撮影）



比ボートを阻止する海警4202のボート



（資料源：左右共新華社20250126）

○ セカンドトーマス礁

海警局報道官は「1月24日、中国の許可を経て、比の民間船1隻がセカンドトーマス礁の座礁艦艇に生活物資を補給、中国海警は比船舶に確認し全行程を監視・管理した」と発表<sup>23</sup>。

【コメント】



中国は南シナ海での比への威嚇や実効支配強化の手段として、投入する軍・海警アセット及び活動地域を逐次拡大している。

比側アセットと近距離で直接対峙している状況も映像や AIS で確認されており、今後衝突等により物理的な被害が発生する可能性が大きくなっている。

## 6 軍事交流

### ○ 劉振立統合参謀長のマレーシア・インドネシア訪問

1月6～12日、劉振立統合参謀長がマレーシア・インドネシアを訪問。

8日にはマレーシアで、アンワル・マレーシア首相と会見。またカレド・ノルディン国防相・モハマッド・アブ・ラーマン国軍司令官と会談し、両軍関係強化等について話し合った<sup>24</sup>。

同参謀長は9～10日にはインドネシアで、シャフリイ国防相・アグス国軍司令官と会談し、共同訓練等の各分野での関係強化について話し合った<sup>25</sup>。

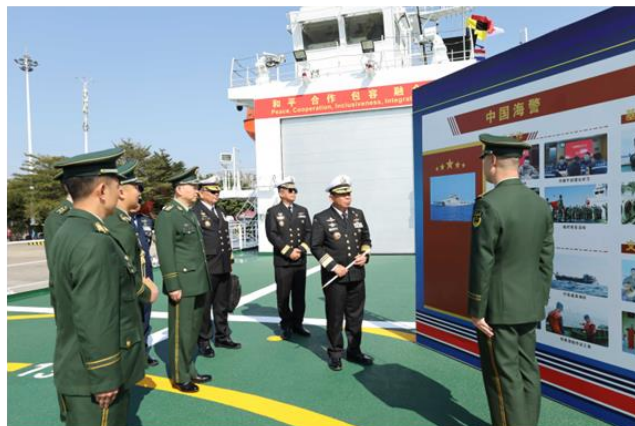
### ○ インドネシア海上保安機構（BAKAMLA）と中国海警局とのハイレベル会議

1月7～11日、イルヴァンシャー・インドネシア海上保安機構長官（海軍中将）率いる代表団が訪中。郁忠中国海警局局長と共に初の中国海警局・インドネシア海上保安機構ハイレベル会議を開催し、今後の定期会議、巡視船の相互訪問、キャパシティビルディング等での協力強化について話し合った<sup>26</sup>。

郁忠中国海警局局長とインドネシア海上保安機構長官



インドネシア代表団の海警部隊視察（広州）



（資料源：左右共中国海警局20250111）

### ○ 王毅共産党政治局員兼外相のアフリカ歴訪

王毅共産党政治局員兼外相は5～11日、ナミビア、コンゴ共和国、チャド、ナイジェリアのアフリカ4カ国の歴訪した。

9日、王毅はナイジェリアの記者会見にて、「中国はアフリカへ10億元の無償軍事援助、軍6000人、警察1000人の人材育成支援を提供する。」と発表した<sup>27</sup>。

### ○ 平和の箱舟帰港

1月16日、海軍の「平和の箱舟」病院船が「和諧使命-2024」の任務を終了、舟山に帰港した。

同船は2024年6月16日に出港、セーシェル、タンザニア、マダガスカル、モザンビーク、南アフリカ、アンゴラ、コンゴ、ガボン、カメルーン、ベナン、モーリタニア、ジブチ、スリランカ13か国を訪問し医療を提供。215日、3万カイリを航行し、平和の箱舟シリーズでは最も長く、訪問国も最多であった。この間、延べ82,980人を診察、1,392件の手術を実施した。



マダガスカル、コンゴ、ガボン、ジブチ、スリランカ等では国家元首や政府首脳が同船を視察した<sup>28</sup>。

タンザニアの医者と共同の船内での手術



受診の為に並ぶベナンの人々



(資料源：左右共に解放軍報20250121)

#### ○ 中仏地域司令官オンライン会議

1月17日、呉亜男南部戦区司令官とパンジェ・フランス軍太平洋管区統合司令官がオンライン対話を実施し、共通の関心事項について意見交換した<sup>29</sup>。

#### 【コメント】

中国は比以外の南シナ海周辺国との関係強化を図っている。

日本も、石破首相が1月にマレーシア・インドネシアを訪問し、10日にアンワル・マレーシア首相と、11日にプラボウォ・インドネシア大統領と首脳会談を行い、中谷防衛相も5～7日、インドネシアを訪問した。

劉統合参謀長のマレーシア・インドネシア訪問とインドネシア海上保安機構と中国海警局とのハイレベル会議はその訪問の同時期に実施され、劉統合参謀長はマレーシアでアンワル首相と会見している。中国は軍を活用し、日本と東南アジア諸国との安全保障面での関係強化に対応している。

また、17日に中仏地域司令官オンライン会議で南部戦区司令官と対話したパンジェ仏太平洋管区統合司令官は昨年12月17～19日に日本を訪問し、本年2月から3月ごろに、仏空母打撃群の一部が日本に寄港する予定だと明らかにしている。中国は日本と欧州の関係強化を睨みつつ、軍事交流の対象を選別している可能性がある。

アフリカについては、平和の箱舟が12か国を訪問し、医療活動を行った。和諧使命の任務は2010年から開始され、アフリカを含む累計49か国を訪問し、延べ37万人を治療している。

王毅外相も改めて中国のアフリカへの軍事協力を表明したが、その背景には、①在アフリカ中国企業や中国人を標的とする誘拐・テロ等が発生しており「一带一路」推進のためには現地の治安安定が必須、②中国の主導する国際秩序構築のためアフリカ諸国を取り込み、③兵器輸出の下地作り、等が考えられ、今後もアフリカとの関係強化のため、軍を活用していくと思われる。

## 【参考文献】

- 1 国防部網 20250117  
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16364845.html>
- 2 中国軍網 20250125  
[http://www.81.cn/yw\\_208727/16366435.html](http://www.81.cn/yw_208727/16366435.html)
- 3 中国軍網 20250126  
[http://www.81.cn/yw\\_208727/16366464.html](http://www.81.cn/yw_208727/16366464.html)
- 4 中国軍網 20250126  
[http://www.81.cn/yw\\_208727/16366465.html](http://www.81.cn/yw_208727/16366465.html)
- 5 中国軍網 20250123  
[http://www.81.cn/szb\\_223187/szblb/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-23&paperNumber=01](http://www.81.cn/szb_223187/szblb/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-23&paperNumber=01)
- 6 環球網 20250122  
<https://mil.huanqiu.com/article/4LB5yusSazI>
- 7 中国海警局 20250121  
[https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202501/t20250121\\_2596.html](https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202501/t20250121_2596.html)
- 8 海洋委员会海巡署 20250109  
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=163200&ctNode=650&mp=999>
- 9 海洋委员会海巡署 20250121  
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=163250&ctNode=650&mp=999>
- 10 海洋委员会海巡署 20250106  
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=163118&ctNode=650&mp=999>
- 11 海洋委员会海巡署  
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=163252&ctNode=650&mp=999>
- 12 防衛省 20250117  
[https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/area/2025/20250113\\_chn-j.html](https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/area/2025/20250113_chn-j.html)
- 13 解放軍報 20240102  
[http://www.81.cn/szb\\_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-02&paperNumber=11&articleid=946741](http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-02&paperNumber=11&articleid=946741)
- 14 解放軍報 20240106  
[http://www.81.cn/szb\\_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-06&paperNumber=04&articleid=946956](http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-06&paperNumber=04&articleid=946956)
- 15 解放軍報 20240109  
[http://www.81.cn/szb\\_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-09&paperNumber=11&articleid=947165](http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-09&paperNumber=11&articleid=947165)
- 16 解放軍報 20250112  
[http://www.81.cn/szb\\_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-12&paperNumber=04&articleid=947362](http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-12&paperNumber=04&articleid=947362)

- 17 国防部網 20250118  
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16365173.html>
- 18 環球網 20250101  
<https://mil.huanqiu.com/article/4KtKT5CW2w1>
- 19 海洋装备与公务船资讯 20250116  
[https://www.weibo.com/hshxiaoxu?refer\\_flag=1005055013\\_](https://www.weibo.com/hshxiaoxu?refer_flag=1005055013_)
- 20 中国海警局 20250201  
[https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202502/t20250201\\_2607.html](https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202502/t20250201_2607.html)
- 21 環球網 20250201  
<https://mil.huanqiu.com/article/4LJJIWND Ao2>
- 22 中国海警局 20250125  
[https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202501/t20250125\\_2602.html](https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202501/t20250125_2602.html)
- 23 中国海警局 20250124  
[https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202501/t20250124\\_2599.html](https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202501/t20250124_2599.html)
- 24 国防部網 20250109  
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16363521.html>
- 25 国防部網 20250112  
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16363985.html>
- 26 中国海警局 20250111  
[https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202501/t20250111\\_2591.html](https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202501/t20250111_2591.html)
- 27 中国外交部 20250110  
[https://www.fmprc.gov.cn/web/wjzbzhd/202501/t20250110\\_11530248.shtml](https://www.fmprc.gov.cn/web/wjzbzhd/202501/t20250110_11530248.shtml)
- 28 中国軍網 20250117  
[http://www.81.cn/szb\\_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-17&paperNumber=02&articleid=947733](http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-01-17&paperNumber=02&articleid=947733)
- 29 国防部網 20250117  
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16364849.html>

中国軍事動向月報 2025年1月

2025年2月7日発行

公益財団法人国家基本問題研究所  
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1  
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。